

丹羽病院長あいさつ



愛知県がんセンター病院長

丹羽 康正

日頃は愛知県がんセンターの診療・研究にご理解をいただきまして有難うございます。

2019年4月より愛知県がんセンター愛知病院が岡崎市へ移管したことに伴い、「中央病院」の名称が消え、1964年設立時の「愛知県がんセンター」に戻りました。元号は新たに「令和」となりましたが、基本理念である「最先端の研究成果と根拠に基づいた最良のがん医療」を最高水準の医療安全のもと患者さんに届けることは、引き続き使命としてまいります。

最近のがん治療の中で話題となっている免疫療法とがんゲノム医療を簡単にご紹介します。免疫療法については、2014年9月に「オプジーボ」が保険収載され、劇的に効果がある患者さんがいる一方、非常に高額な医療費が話題となりました。この「オプジーボ」を始めとする免疫チェックポイント阻害剤は、2019年4月現在では6剤が保険収載されています。当センターでは、これらの薬剤の治験や「標準治療」に組み入れる臨床試験を担い、多くの患者さんの治療を行っています。

また、がんゲノム医療については、2018年3月に閣議決定された「第3期がん対策推進基本計画」において大きく打ち出され、がんゲノム医療に基づいたパネル検査（遺伝子を一度に数多く診断できる方法）が今年度前半に保険収載される予定です。がんは遺伝子異常の集積で発生すると言われており、遺伝子検査をすすめると、がん発生の元となった体細胞の遺伝子異常のみならず、親から遺伝する生殖細胞の遺伝子異常も二次的に見つかるようになってきました。このことから、臓器に特定されず、キーとなる遺伝子異常に効果がある治療薬の開発が期待されます。がんゲノム医療はまだまだ発展途上ですが、私どもは院内に個別化医療センター、リスク評価センター、がんゲノム医療センターを設置し、新しい医療に積極的に取り組んでいます。

がんといえば「愛知がん」と言われるように努力してまいりますので、是非患者さんのご紹介をお願い申し上げます。

システム解析学分野長就任のあいさつ



愛知県がんセンター研究所
システム解析学分野長

山口 類

平成31年2月に、東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センターから、愛知県がんセンター研究所システム解析学分野の分野長として就任いたしました山口類です。

分野名にもありますように、我々は、がんの複雑なシステムをゲノム情報等のビッグデータ解析を通じて理解し、得られた知見を、個人に最適な予防や治療等に役立てることを目指して研究を行っています。そのために、スーパーコンピュータや先進的な統計・数理モデリング技術をフル活用しています。また、様々な人工知能技術の開発と活用もいっそう重要になってきています。

愛知県がんセンターでは、多様な分野のエキスパートが、日々、治療や研究に取り組んでいます。これから我々もそのチームに加わり、いち早く研究の成果を皆様一人ひとりのために役立てられるよう努力して参りたいと思います。皆様からの温かいご支援をいただければ幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

新任医師の紹介



消化器内科部
羽場 真

4月より消化器内科部に赴任いたしました羽場と申します。膵臓や胆道（胆管・胆嚢）の疾患の診断および治療を専門としています。わかりやすい説明と質の高い診療を心がけて、一人でも多くの患者様の笑顔を見ることができれば幸いです。



呼吸器内科部
大矢 由子

当院でレジデントとして4年間修練し、今春より呼吸器内科部のスタッフになりました。呼吸器内科で進行肺癌の治療を行うことと並行して、呼吸器外科で周術期の診療も行ってまいります。内科と外科の風通しが良くなり、より良い医療を提供できるように尽力していきたいと思っています。



頭頸部外科部
寺田 星乃

この度、頭頸部外科部の医長として採用されました寺田星乃です。これまでの5年間は頭頸部外科のレジデントとして、診療に関わってきました。これまでの経験を活かし、患者さんにとって安全で質の高い医療が提供できるよう、精進して参ります。どうぞ宜しくお願い致します。



婦人科部
茂木 一将

がん治療ではさまざまな治療方法を組み合わせることが多く、複雑になりがちです。それらをわかりやすく説明し円滑に提供できるように丁寧な診療を心掛けたいと思います。また患者さんの意見をしっかりと伺い、よりよい医療を考え、提案できるよう努力していきます。



医療安全管理部
鈴木 麻友

今年度より愛知県がんセンターの医療安全管理部、循環器科部に着任いたしました鈴木麻友と申します。これまでは循環器内科一般の診療を行ってまいりました。今までの経験を活かしながらこちらでもお役に立てるよう頑張ります。よろしくお願い致します。

第10回中部地区がん医療連携学術講演会を開催しました

3月9日（土）メルパルク名古屋において、近隣の医師会、歯科医師会、薬剤師会のご協力のもと、第10回中部地区がん医療連携学術講演会を開催しました。160人もの先生方にご参加いただき、ありがとうございました。

当院診療部門からの紹介や話題提供に加え、がんサバイバルについての特別講演があり、活発な意見交換も行われ、大変有意義な会となりました。次回の第11回は、7月27日（土）17時からメルパルク名古屋にて開催します。



2019年度 愛知県がんセンター公開講座

◇開催日及びテーマ

回	開催日時・場所	申込・定員	テーマ	講師
1	2019年5月18日(土) 【愛知県芸術文化センター】 12階 アートスペースA	14:00~16:00 (開場13:30) 180名	講演「令和元年 もっと知ってほしいがんロコモ! (がんであっても「動ける」ために)」 ①がんロコモって何ですか? —がんロコモ、ロコモ度チェック、ロコモ体操— ②食道がん手術を乗り越えるために ③脊椎転移の早期診断と最新の外科治療	司会：病院長 丹羽 康正 リハビリテーション部長 吉田 雅博 消化器外科部 医長 檜垣 栄治 リハビリテーション部 伊藤 敬太 脳神経外科部 医長 灰本 章一
2	2019年7月6日(土) 【愛知県芸術文化センター】 12階 アートスペースA	14:00~16:00 (開場13:30) 180名	講演「令和元年 免疫療法と最新の高精度放射線治療」 ①陽子線治療の現状 ②広がる免疫治療の適用 — 肺がんを中心に — ③高精度放射線治療の現状と免疫療法併用への期待	司会：放射線治療部長 古平 毅 名古屋陽子線治療センター長 荻野 浩幸 呼吸器内科部 医長 清水 淳市 放射線治療部長 古平 毅
	2019年8月上旬 【愛知県がんセンター研究所】	9:00~17:00 事前申込要 14名	高校生向け 基礎実験体験講座 「調整中」 ※詳細については、研究所Webページにて随時公開していきますので御確認ください。 https://www.pref.aichi.jp/cancer-center/ri/index.html	
3	がん征圧月間 【がん征圧講演会】 2019年9月7日(土) 【愛知県がんセンター国際医学交流センター】	14:00~16:30 (開場13:30) 350名	講演「令和元年 がんゲノム医療と免疫療法の最前線」 ①遺伝子パネル検査の凄みと弱み ②免疫チェックポイント阻害薬の現状と免疫研究の展望 ③がんセンターが取り組む新たな治療の開発 — 臨床の現場から — ④AIが切り開くがん治療	司会：がん標的治療トランスレーショナルリサーチ分野長 衣斐 寛倫 がん標的治療トランスレーショナルリサーチ分野長 衣斐 寛倫 腫瘍免疫制御トランスレーショナルリサーチ分野長 松下 博和 薬物療法部 医長 坂東 英明 システム解析学分野長 山口 類
4	2019年11月9日(土) 【愛知県がんセンター国際医学交流センター】	14:00~16:00 (開場13:30) 350名	講演「令和元年 肺がん治療の最前線」 ①肺がん診療の現場では? ②肺がんの胸腔鏡手術、ロボット手術 ③がん免疫療法の進展 ④肺がんの薬物療法について	司会：副院長兼呼吸器内科部長 樋田 豊明 副院長兼呼吸器内科部長 樋田 豊明 呼吸器外科部長 黒田 浩章 腫瘍免疫制御トランスレーショナルリサーチ分野長 松下 博和 呼吸器内科部 医長 渡辺 尚宏
5	2020年2月29日(土) 【愛知県がんセンター国際医学交流センター】	13:00~15:00 (開場12:30) 350名	講演「大腸がん診療の進歩(仮題)」 ①大腸がんの撲滅に向けて内視鏡ができること ②大腸がんの手術療法について ③がんの遺伝診療からせまる大腸がんの予防・早期診断・治療	司会：病院長 丹羽 康正 内視鏡部長 田近 正洋 集中治療部長 小森 康司 リスク評価センター長 井本 逸勢

◇受講料及び受講対象 無 料・どなたでも受講できます。

◇参加方法 申込不要 ※事前の連絡および申込等は必要ありません。当日は直接会場までお越しください
※「高校生向け 基礎実験体験講座」の申込は事前申込が必要です。

◇その他

- 1 当日は駐車場が混雑しますので、公共交通機関をご利用ください。
- 2 この内容は、愛知県がんセンターホームページでもご覧になれます。
- 3 申し込みいただいた方の個人情報は、当該目的以外に使用しません。

【問い合わせ先】

愛知県がんセンター運用部経営戦略室 公開講座係

〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1番1号

*TEL(代表) 052-762-6111(内線2511) *FAX 052-764-2963

*公開講座ホームページ <https://www.pref.aichi.jp/cancer-center/cc/03kouza/index.html>

とうろく医探訪 No.11

Produced by
地域医療連携・相談支援センター

おおくまクリニック 院長：大熊 攻 先生



愛知県がんセンターの先生、およびスタッフの皆様には常々病診連携を通じて色々お世話になり有り難うございます。私は昭和50年1月、名古屋大学環境医学研究所から愛知県がんセンターへ赴任しました(第二内科兼臨床検査部)。平成5年4月～平成8年3月までの一時期は、愛知県総合保健センターへ異動しましたが、平成8年4月から、当時の小川一誠総長先生からのお誘いがあり、臨床検査部長としてがんセンターへ戻りました。その後、約10年間お世話になりました。がんセンター時代は、故太田和雄名誉総長先生(当時は、第二内科部長)の指導の下、主に「抗癌剤による副作用対策(心毒性、肺毒性、神経毒性、脱毛対策)」や「新規抗癌剤の臨床治験」などの臨床研究に携わりました。太田先生が平成元年10月に名古屋で第27回日本癌治療学会を主催された際には、「抗癌剤の副作用対策」のシンポジウムで発表させていただきました事を懐かしく思い出します。

平成18年2月に名東区の本郷近傍で「おおくまクリニック」を開院し、現在に至っています。当クリニックでは、内科・循環器内科を中心に診療しています。様々な医療機器(心電図、ホルター心電図、24時間自由行動下血圧測定装置、血管進展性検査、心臓超音波検査、サイクルエルゴ運動負荷試験、胸部X線検査、終夜睡眠ポリグラフ、骨密度検査)を利用し、病気の早期発見に取り組んでいます。また、がんセンターに勤務していた関係で、患者さん本人、或いは近隣者のがん疾患に関する相談がしばしばあり、がんセンターへご迷惑をお掛けしていますが、今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

平成18年2月に名東区の本郷近傍で「おおくまクリニック」を開院し、現在に至っています。当クリニックでは、内科・循環器内科を中心に診療しています。様々な医療機器(心電図、ホルター心電図、24時間自由行動下血圧測定装置、血管進展性検査、心臓超音波検査、サイクルエルゴ運動負荷試験、胸部X線検査、終夜睡眠ポリグラフ、骨密度検査)を利用し、病気の早期発見に取り組んでいます。また、がんセンターに勤務していた関係で、患者さん本人、或いは近隣者のがん疾患に関する相談がしばしばあり、がんセンターへご迷惑をお掛けしていますが、今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

【医療機関情報】

おおくまクリニック

診療科目/内科、循環器内科

電話/052-778-6680

所在地/〒465-0023 愛知県名古屋市名東区石が根町87

URL/www.okuma-clinic.com



	診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
午前	9:00-12:00	○	○	○	○	○	○	/
午後	4:00-7:00	○	○	/	○	○	/	/



【市バス案内】

上社11系統(左回り)「藤森1丁目」下車
上社11系統(右回り)「藤森1丁目」下車
名東巡回 星ヶ丘行「藤森1丁目」下車
名東巡回 猪高車庫行「藤森1丁目」下車



編集後記：第11回は名東区、「おおくまクリニック」です。地域に根差し、内科・循環器の患者さんを中心に、がん検診異常の方も診てくださっております。診察室の明るい橙色の壁と、先生の穏やかな口調のコントラストが印象的です。ウインクのクマ(循環器=♥)が可愛いです！<Y.SANO>

胃がんの悪性化にかかわるがん促進分子の発見

研究所 分子遺伝学分野



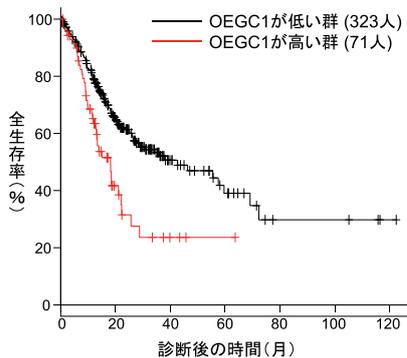
分子遺伝学分野長
井本 逸勢

胃がんは日本人に多いがんの一つです。検診での早期発見や治療法の進歩により治療成績はよくなっていますが、がん細胞だけが持つ分子を狙った薬（分子標的薬といいます）がほとんどなく、副作用が少なく効果の高い薬の開発のためにこのような分子の発見が望まれています。

私たちは、Web上で公開されている大規模な胃がんのゲノム解析の結果を使ってがん細胞だけが持っている分子を選び出し、その中からさらにがん細胞がたくさん持っているほど患者さんが早く亡くなりやすい分子を探すことで、胃がんの悪性化にかかわるがん促進分子候補を得ることができました。まだ研究の途中ですが、この分子をたくさん持つ胃がん細胞を使って分子が働かないような処理をすると、がん細胞が増えにくくなることもわかりました。このため、悪性度の高い胃がんの目印（分子マーカーといいます）になるだけでなく、治療の標的になる可能性があります。

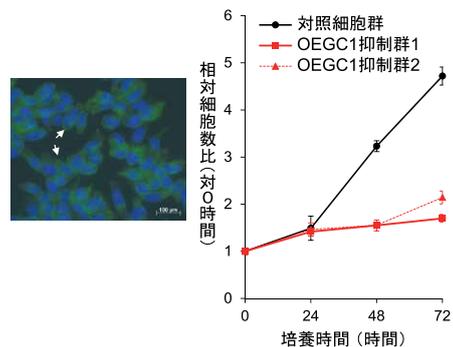
一部の悪性度の高い胃がんだけが持つ分子ですが、従来の治療の効果が低いこのようながんに対する新しい治療法の開発につながるかもしれません。このような分子を様々ながんでみつけていくことも、分子遺伝学分野の使命の一つです。

A. 胃がん患者さんの生存曲線（データベースでの調査）



(A) 新しい胃がん促進分子OEGC1（未発表のため仮の分子名にしています）がたくさん出ている胃がんの患者さんは、診断後により早く亡くなる傾向にある。

B. 胃がん細胞を使った実験



(B) OEGC1分子を観察すると胃がん細胞表面に観察され（左の矢印のように細胞の輪郭にそって緑色に見えるのがOEGC1）、この分子を抑制した細胞（右の赤線）は抑制していない細胞（黒線）に比べて増えにくくなる。

研究所 分子診断トランスレーショナルリサーチ分野 スタッフの紹介

分子診断トランスレーショナルリサーチ分野では、消化器がんや肺がんを中心に、次の2つの大きな研究テーマに取り組み、がんの克服を目指しています。一つめは、患者さん一人一人に合わせて最適な治療を行うために、がんを早期発見したり治療効果を予測したりできる血液診断テストの開発です。二つめとして、タンパク質を中心とする分子解析を用いて、がん細胞と正常細胞との違いを理解し、がん細胞に特徴的な分子をターゲットとする新しい治療法の開発も行っています。



写真：前列左から、Shi, Xiaoyi（連携大学院生）、Du, Yuwen（連携大学院生）、Khaledian, Behnoush（連携大学院生）、田村有沙（技師）、田口 歩（分野長）、島田友香子（嘱託技師）、荒川未和（秘書）、中島法子（秘書）
後列左から、磯村久徳（嘱託技師）、梶野泰祐（主任研究員）、奥本泰秀（嘱託技師）、阿部雄一（主任研究員）、水野和幸（任意研修生、名古屋大学大学院）、森 治樹（リサーチレジデント）

「MRI装置が増設されました」

病院 放射線診断・IVR部



放射線診断・IVR部長
稲葉 吉隆



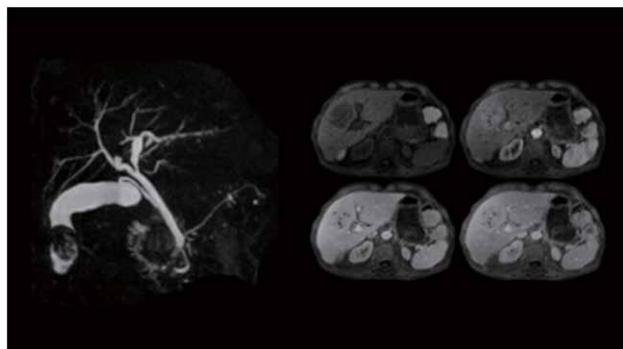
放射線技術室長
松島 秀

平成31年3月にMRI装置が1台増設されました。MRIはMagnetic Resonance Imaging（磁気共鳴画像）を略語化したもので、MRI検査は磁気の利用して体の臓器や血管などを撮像します。がん診療においてMRIは、がんを見つけたり、がん組織の性質を見極めて治療法を決めたり、治療効果を判定するために利用されています。新しいMRI装置も既存装置と同様に3テスラの強い静磁場強度であるとともに、エアコイルと呼ばれる新しいコイル（体内から発生する信号を受信する装置）を装着しています。このような新しい技術の導入により、画質の向上や撮像時間を短くすることができます。また、比較的短い時間で三次元のデータを得ることができるので、一回の撮像でいろんな角度から見た画像を作ることができたり、より精彩な画像を作ることが

できるようになります。このように、増設されたMRI装置は、画質が向上することによって従来はつきりしなかったがんを見つけられるようになり、がん組織の性質や病気の広がりや正確に診断できるようになるとともに、がんの治療効果をより早い時期により正確に知ることにも期待されています。



増設されたMRI装置



(左) MR胆管膵管撮影 (MRCP)

(右) 肝臓MRI

整形外科部 スタッフの紹介

<気になっているしこり(腫瘍や腫れ)はありませんか?>

整形外科部の最大の使命は『しこりの診断外来』です。しこり(軟部腫瘍)は専門に診療する医師や施設がほとんどなく、診断が非常に難しいと言われています。当科では4名の専門スタッフが、あらゆる部位のしこりを診断する外来を行っています。気になっているしこりがある場合は、どこの部位でも、良性腫瘍や悪性腫瘍が疑われる場合でも、お気軽にご紹介もしくは受診をよろしく願いいたします。



写真：左から、濱田俊介(整形外科医長)、
筑紫 聡(整形外科部長)、
吉田雅博(リハビリテーション部長)、
藤原那沙(整形外科医長)

当院の肺がん治療について

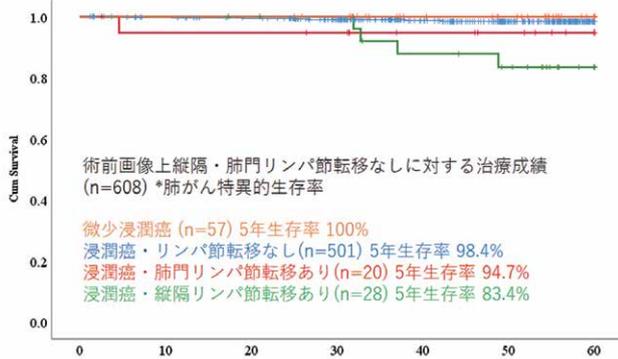
病院 呼吸器外科部



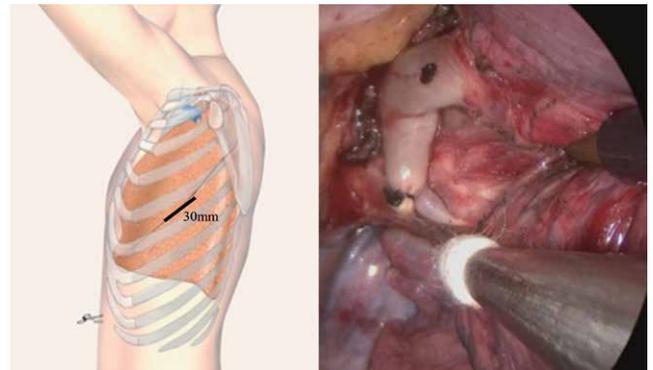
呼吸器外科部長
黒田 浩章

近年、呼吸器外科部では肺がんや縦隔腫瘍に対する完全胸腔鏡下手術（対面式）の適応を積極的に拡大し、2018年度は開胸移行0%と安定した成績を収めています。また治療成績も良好な結果となっています。①小さな傷で胸壁への負担を小さく、②拡大したモニター視で安全、③開胸と同等の手術を行うこと、④早期離床・早期退院、私たちのコンセプトです。主にI期肺がんや転移腫瘍、縦隔腫瘍が良い適応です。さらに胸腔鏡手術だけでなく、ロボット支援手術も積極的に導入しています。また、早期肺がんの中でも転移・浸潤能力がまだ備わっていないと考えられる時期に限って肺機能を温存する縮小手術（区域切除や部分切除）を完全胸腔鏡下で積極的に行い良好な結果を得ています。さらに低侵襲を追求した手術・1つの創部を用いた区域切除も併用して施行しています。

局所進行がんや再発がんにおいては、呼吸器内科・外科と共通のスタッフを設置することで、外来受診した時点から情報を収集し翌日までには治療方針を検討可能となり、抗がん剤や放射線と組み合わせ治療や分子標的薬、術前免疫チェックポイント阻害薬の治験など個別化にかつ迅速に対応できるように取り組んでおります。



肺がんに対する対面式胸腔鏡手術の治療成績



単孔式胸腔鏡

地域医療連携・相談支援センター スタッフの紹介

地域医療連携・相談支援センターでは、初診患者さんの予約に関することや、患者さんが安心して療養生活を送れるよう、地域の医療機関と連携を図り、在宅・転院調整業務を行っています。また、がんに関する療養生活上の悩みや仕事と治療の両立に関すること等の相談窓口を担っています。面談、電話による相談に加え、今年4月からはメールによる相談も始めましたのでどうぞご利用ください。詳細は当院のホームページをご覧ください。

写真：前列左から、
船崎初美（相談支援グループ班長）、
伊藤友一（地域医療連携・相談支援室長/消化器外科医長）、
樋田豊明（地域医療連携・相談支援センター長/副院長/呼吸器内科部長）、
福嶋敬子（地域医療連携室師長）、スタッフ一同



ボランティア活動について

現在、当院にはボランティアとして51名と1団体の方が登録していただいております。外来案内や庭園、かのこ文庫、車いす整備、院内ギャラリー等の活動は多くの患者さんから「元気が出た」「癒される」との声があり、病院職員では手が届かない部分で患者さんを支えていただいております。

ボランティアの方を対象とした年一回の研修会は、2月28日に、「健康増進対策～ロコモ度チェック&ロコモ体操～」を開催しました。(写真) みなさん熱心に取り組み、活気ある研修会となりました。研修後のランチを食べながらの意見交換会では、職員が気付かない点をご指摘いただきました。今後の改善につなげたいと思います。

ボランティア委員会 委員長 小原真紀子



医療連携室のご案内

対応時間	月曜日～金曜日 午前9時00分～午後7時00分 土曜日 午前9時00分～午後1時00分 (祝日、年末年始を除く)
電話	052-764-9892 (直通)
FAX	052-764-9897 (24時間稼働しております。)
ホームページ	http://www.pref-aichi.jp/cancer-center/hosp/ 中央病院トップページ右手にある「医療連携」のバナーをクリックしてください。 利用の手引や様式など、詳細を掲載しております。

外来診療案内

受付時間	午前8時30分～午前11時30分 (自動再来受付機による受付は午前8時からできます。)
休診日	土・日・祝日、年末年始
診療科	消化器内科、呼吸器内科、循環器科、血液・細胞療法科、薬物療法科、頭頸部外科、形成外科、呼吸器外科、乳腺科、消化器外科、整形外科(サルコーマ外来)、脳神経外科、泌尿器科、婦人科、皮膚科、眼科、放射線診断・IVR科、放射線治療科、精神腫瘍科、緩和ケア科(リンパ浮腫外来・ペインクリニック)、リスク評価センター
外来診療担当医一覧	毎月1回、月初めに更新しています。詳しくはホームページをご覧ください。
休診情報	お電話またはホームページでご確認ください。

※再診予約制：診察券をお持ちの方は、診察予約をしてください。052-764-2911(直通) 午前9時～午後5時(土・日・祝・年末年始を除く)

※セカンドオピニオン外来は、全科で対応しています。(完全予約制・自由診療)

※精神腫瘍科、リスク評価センターは、予約のみの対応です。

交通のご案内

★公共交通機関のご案内

地下鉄利用 名城線「自由ヶ丘駅」2番出口から徒歩7分

市バス利用 基幹2系統・星丘11系統「千種台中学校」下車徒歩3分

★車でのご案内

◎一般道路

本山交差点から北へ約7分、平和公園の北西

◎高速道路

東名高速道路「名古屋IC」から西へ約15分

名古屋高速「四谷出口」から北へ約10分

※詳しくはホームページをご参照ください。



愛知県がんセンター Tel.(052)762-6111 Fax.(052)764-2963

〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1番1号 ホームページ <https://www.pref.aichi.jp/cancer-center/>

愛知県がんセンター

検索 